

社会の中で自分らしく生きることができる存在へと児童生徒が、 生徒指導 自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のこと。 の定義 なお、生徒指導上の課題に対応するために、必要に応じて指導 や援助を行う。 児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的 生徒指導 <mark>資質・能力の発達</mark>を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け の目的 入れられる自己実現を支える。 その目的を達成するためには、児童生徒一人一人が自己指導 能力を身に付けることが重要。 <mark>心理面</mark>(自信・自己肯定感等)、<mark>学習面</mark>(興味・関心・学習意欲 発達を支え 等)、社会面(人間関係・集団適応等)、進路面(進路意識・将来 ること 展望等)、健康面(生活習慣・メンタルヘルス等)の発達。 主体的に問題や課題を発見し、自己の目標を選択、設定して、 自己指導 目標の達成のため、自発的、自律的、かつ他者の主体性を尊重 能力 しながら、自らの行動を決断し、実行する力

実践上の視点

自己存在感の感受

- ○「自分も<mark>一人の人間として大切にされている</mark>」という自己存在感を、児童生徒が 実感することが大切
- ○<mark>自己肯定感</mark>や<mark>自己有用感</mark>を育むことも 極めて重要

自己決定の場の提供

○授業場面で自らの意見を述べる、観察・実験・調べ学習等を通じて自己 の仮説を検証してレポートする等、自ら考え、選択し、決定する、あるいは発表する、 制作する等の体験が何より重要

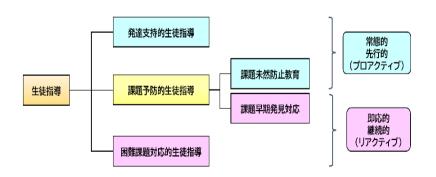
共感的な人間関係の育成

○失敗を恐れない、間違いやできないこと を笑わない、むしろ、なぜそう思ったのか、 どうすればできるようになるのかを皆で考 える支持的で創造的な学級・ホーム ルームづくりが生徒指導の十台 2

安全・安心な風土の醸成

 ○お互いの個性や多様性を認め合い、安 心して授業や学校生活が送れるような風 土を、教職員の支援の下で、児童生徒 自らがつくり上げるようにすることが大切

生徒指導の構造



3

1



特定の児童生徒 高 部 課題早期発見対応 課題早期発見対応 課題予防的生徒指導 時間 軸 常態的 先行的 (プロアクティブ)

5

7

生徒指導の方法(児童生徒理解)

複雑な心理・人間関係の理解	家庭環境、生育歴、能力・適性、興味・関心等の把握児童生徒の感情の動きや児童生徒相互の人間関係の把握仮想空間での不特定多数の人と交流の把握
観察力と専門的・客観 的・共感的理解	● 日頃のきめ細かい観察力● 複眼的な広い視野からの児童生徒理解● 専門的な立場からの児童生徒理解● 調査データに基づく客観的な理解
児童生徒と保護者、教 職員の相互理解	 ● 教職員が、生徒指導の方針や意味などについて発信して、理解を図る。(例えば、授業や行事等で教職員が自己開示をする、定期的な学級・ホームルーム通信を発行するなど)

生徒指導の方法(集団指導と個別指導)

集団に支えられて個が育ち、個の成長が集団を発展させるという相互作用により、児童生徒が社会で自立するために必要な力を身に付けることができるようにする。

集団	田指導	①安心して生活 ②個性を発揮 ③自己決定の機会 ④集団に貢献できる役割 ⑤達成感・成就感 ⑥集団での存在感 ⑦好ましい人間関係 ⑧自己肯定感・自己有用感 ⑨自己実現の喜び	
個別	刂指導	● 集団から離れて行う指導● 集団指導の場面において個に配慮	

【ガイダンスとカウンセリングの充実】

6

- 学習や生活の基盤として、教師と児童生徒との信頼関係及び児童生徒相互のよりよい 人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること。
- 主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、個々の児童(生徒)の多様な 実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリングの双 方により、児童生徒の発達を支援すること。

8

2

生徒指導の方法(チーム支援による組織的対応)

チーム支援の特色	● 保護者、学校内の複数の教職員、関係機関の専門家、地域の人々等が、 支援チームを編成して、課題予防的生徒指導や困難課題対応的生徒 指導を行います。● チーム支援のプロセス
チーム支援の留意点	 合意形成と目標の共通理解 守秘義務と説明責任 記録保持と情報セキュリティ
チーム支援の プロセス	児童生徒一人一人への最適な指導・援助が行えるように、生徒指導、教育相談、キャリア教育、特別支援教育など、それぞれの分野の垣根を越えた包括的な支援体制をつくる。

具体プロセスは次頁

9

取組上の留意点

児童生徒の権利の 理解	(1) 児童の権利に関する条約 (2)こども基本法
ICTの活用	(1)データを用いた生徒指導と学習指導との関連付け (2)悩みや不安を抱える児童生徒の早期発見・対応 (3)不登校児童生徒等への支援
幼児教育との接続	教職員が交流体験や情報交換を通して、幼児がどのように友達のよさや自分のよさ、可能性に気付き、信頼感や思いやりの気持ちを持てるようになるのか、現状での幼児教育や小学校教育の課題がどこにあるのかを、相互理解する。
社会的自立に向けた取組	日頃から児童生徒の社会的自立に向けた支援を行う。生涯を見通したキャリア教育や適切な進路指導を行う。必要な場合には、就労支援事業所や子供・若者相談機関などにつなぐといった支援を行う。

① チーム支援の判断と アセスメントの実施	児童生徒の課題解決に向けて、アセスメントのためのケース会議を開催します。当該児童生徒の課題に関連する問題 状況や緊急対応を要する危機の程度等についての情報を収集・分析・共有し、課題解決に有効な支援仮説を立て、支援 目標や方法を決定するための資料を提供し、チーム支援の必 要性と方向性について判断します。
② 課題の明確化と目標の 共有	課題を明確化し、具体的な目標(方針)を共有した上で、それぞれの専門性や持ち味を生かした役割分担を行います。
③チーム支援計画の作成	アセスメントに基づいて、問題解決のための具体的なチーム による指導・援助の計画を作成します。
④ チーム支援の実践	チーム支援計画に基づいて、チームによる指導・援助を組 織的に実施します。
⑤ 点検評価に基づくチーム 支援の終結・継続	チーム支援計画で設定した長期的、短期的な目標の達成 状況について学期末や学年末に総括的評価を行います。

10

個別の課題を抱える児童生徒への指導

第3節 喫煙、飲酒、薬物乱用

第4節 少年非行

第5節 暴力行為

第6節 いじめ

第7節 インターネット・携帯電話にかかわる課題

第8節 性に関する課題

第9節 命の教育と自殺の防止

第10節 児童虐待への対応

第11節 家出

第12節 不登校

第13節 中途退学

11 12